かお

産科医増に取り組む鹿大産科婦人科教授

小林（こばやし）　裕明（ひろあき）さん

2年前に鹿児島大学医学部産科婦人科准教授に就いて以来、学生と話す機会を積極的に持ち、産婦人科の面白さを伝えてきた。「母親とおなかの赤ちゃんという患者2人の命を考える。こんな医療は他にない」「内科、外科、プライマリーケア、救急…。いろいろな要素が詰まっているよ」

4月に教授に就任し、改めて産科医不足は深刻な課題と感じている。医師が少ない、多忙になる、目指す人が減る。「この負のスパイラルを変えたい」と意気込む。「まず産科医を目指す学生を増やし、県内産科医を増やし、負担を減らす。正のスパイラルにしたい」

6年生の実習先に産婦人科を選ぶ学生は1～2人だったが、2015年度は12人、16年度は11人に増えた。鹿児島大病院は、県内関連病院に医師を派遣する役割も担う。学生たちが鹿児島で産科医を目指してくれることを願っている。

宮崎市出身。子どもの時はエンジニアになりたかった。金物屋だった両親の「将来は地元に帰ってきてほしい」という希望もあり、医師を志す。

がん治療と外科に関心を持ち、卵巣がんなどは外科としてもやりがいがあると感じて産婦人科に進んだ。九州大医学部卒後、同大学院で医学博士を取得。婦人科がんの診療、研究を続けてきた。

スポーツ好きで、学生時代はテニスやウインドサーフィンを楽しんだ。今はもっぱらゴルフの打ちっ放し。最近忙しくて行けないが、「体力維持のためにも体は動かしたい」。鹿児島市に妻と暮らす、56歳。（川畑美佳）